

## 第2学年2組 外国語（英語）科学習指導案

T1 池野 那穂子

T2 シイディッキ リュウ

### 1 単元名 Stage Activity 1 A Message to Myself in the Future

#### 2 単元について

##### (1) 生徒の実態

本学級の生徒は、1学年での学習を経て、英語でのコミュニケーションに対して積極的に取り組んでいる。特に「聞くこと」、「話すこと」に関する活動では、間違いを恐れずに活動に臨む生徒が多い。また、2学年になり、会話の中でリアクションをしたり、相手の返答を踏まえてさらに質問をしたりと、相手意識をもちながら話すことへの意欲が高まりを見せている。一方で平素の授業の中で表出する様子から、相手の発言に対し、次の質問をしたいが表現できずもどかしく思う気持ちや、本当に伝えたいことをうまく英語にできないと感じている生徒が多いこともわかる。教師が既習表現を用いた表現を例示することで、活用できるようになる場面も多くあった。以下は4月の年度始めに実施したアンケートの回答である。

問1 英語の学習で楽しいと感じる活動は何ですか。 （「楽しい、どちらかといえば楽しい」と回答した人数）	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
	23名	21名	30名	25名	20名
問2 話すこと [やり取り] で、頑張りたいことは何ですか。 （主な回答を抜粋）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手が言ったことにすぐに反応して、リアクションをしたり、次の質問をしたりできるようにしたい。</li> <li>・相手からより多くの情報を引き出して、会話を広げる。</li> <li>・学習した表現を使って会話をしたい。</li> <li>・会話が続くように、次の質問をすぐにつくれるようにしたい。</li> </ul>				

（令和5年4月14日 2年2組 35名）

問1の質問に対して、どの領域の活動に対しても「楽しい」、「どちらかといえば楽しい」と回答している生徒が多くいる中で、話すこと [やり取り] に対して楽しさを感じている生徒が最も多かった。昨年度を振り返って、今年度頑張りたいことに対して、「相手」や「友達」というキーワードが多く含まれる内容が多く挙げられた。自分が話すだけではなく、相手が言ったことを踏まえて会話を広げたり、次の質問をしたりしたい、など、相手意識を含む内容を挙げた生徒が多くいることがわかった。また、相手が言ったことにすぐに反応したり、次の質問をしたりしたい、など既習表現を用いた即興的な反応に対する課題があるということも明らかになった。

##### (2) 単元観

本単元は、既習表現を復習しながらお互いの好きなことや得意なこと、向いていると思う仕事を理由とともに伝え合って整理し、10年後の自分にメッセージを書くという内容である。中学校学習指導要領解説外国語編（平成29年7月）には「理解していること・できることをどう使うか」という「思考力・判断力・表現力等」の育成に関わる目標として、「(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。」と示されている。自分が感じる相手の長所やよいと思う点を伝え合う場面では、既習の表現をいかに活用するかが鍵となる。友達に対して客観的な意見を伝え合うためには、直前の単元 Unit 3 で学習した不定詞のみならず、これまで学習した全ての表現を活用する必要がある。自分が知り得る友達のよい点や職業に対す

る見解を伝えるという、生徒にとって関心のあるやり取りを成立させるために、豊かな表現を目指して意欲的に取り組むことのできる単元であると考え。

### (3) 指導観

そのため、指導にあたっては、学習した表現と日常生活のコミュニケーションがどのように結びつくのかを考えさせながら指導していきたい。英語で表現し伝え合う力を育成するためには、学習した内容をどのように活用するかを考える思考が必要である。目的や場面、状況等を理解して、情報や意見を発信することができるようになるためにも、学んだことの意味付けを行ったり、既有知識や個人的経験に新たに得られた知識を重ね合わせて、言語活動で活用したりすることが重要であると考え。そこで、昨年度総合的な学習の時間に行った、「よりよい生き方とは」の講座で学習したキャリアアーカーの視点を取り入れる。自分の得意なことや、その仕事を選ぶ動機、意味や価値を感じる時など、ワークキャリアについての自分の考えを表現しながら、友達と意見のやり取りをすることで、授業で学んだ表現を生活の中の自己表現に落とし込んで活用できると実感する授業を目指す。

また、1学年では、自分の夢を I want to～を用いてスピーチする活動を行ったが、それに加えて情報をプラスしたり、友達と意見を交わしたりする活動を取り入れることで、使用する表現の幅が広がり、生徒が英語で表現できる価値や自己の成長を感じることができるようになりたい。

## 3 単元の目標

- Unit 3までの学習事項を用いた文の形・意味・用法を理解し、それらを用いて、好きなことや得意なこと、向いていると思う仕事を伝え合って整理し、未来の自分へのメッセージを書く技能を身に付ける。

[知識及び技能]

- 10年後の自分へのメッセージを伝えるために、おたがいの好きなことや得意なこと、向いていると思う仕事を理由等とともに伝え合って整理し、自分のキャリアについて書く。

[思考力、判断力、表現力等]

- 10年後の自分へのメッセージを伝えるために、おたがいの好きなことや得意なこと、向いていると思う仕事を理由等とともに伝え合って整理し、自分のキャリアについて書こうとしている。

「学びに向かう力、人間性等」

## 4 単元の学び価値とそれを実感させるための手立て

### (1) 単元の学びの価値

# Interaction helps us to choose the way to go!

英語科が考える学びの価値は「Interaction opens the doors to our future!」である。外国語の学習において、自分と相手（話し手、書き手）との双方向的なインタラクションの活性化が重要であることは周知の通りである。また、「話すこと [やり取り]」の活動は生徒にとって楽しい活動であり、即興的な表現の力をより伸ばしていきたい生徒が多いことから、本単元では、お互いの行動や性格に対する印象、将来について友達と伝え合う活動を通して、前述の学習者が求める価値と本単元のタスクがもたらす価値の間のギャップを縮めることを意識している。また、総合的な学習の時間に行った、「よりよい生き方とは」の学習を通して深めたキャリアについての内容や自分の思いについて、英語で伝え合うことで生徒自身の成長や達成感を感じさせ、さらなる英語学習のモチベーションに繋げていきたい。

## (2) 単元の学びの価値を実感させるための手立て

### ① 適切な認知的負荷と既習内容の振り返り

ブルームの思考力分類学(Bloom 1956)では、思考のタイプを複雑さのレベルで6段階に分類しており、その上位の3つの思考力段階(Higher-order thinking skills: HOTS)は「分析」、「評価」、「創造」である。本時では、「評価」を取り入れ、生徒に適切な認知的負荷をかけてこれまで学習した表現の想起・活用を促していく。また、基本的な表現の定着を図るだけのコントロールド・プラクティスではなく自己関与や他者評価をトピックにすることにより、生徒の豊かな表現を求める姿勢を促進させる。

### ② 総合的な学習「よりよい生き方とは」との関連付け

昨年度、総合的な学習の時間において「よりよい生き方とは」の講座が開設され、生徒はキャリア教育の専門家のお話を聞いたり、大人と座談会をしたりして自分自身のキャリアについて考えた。また、キャリアアンカー(人生において最も大切な価値観や欲求)やワークキャリアについての捉えについても学習し、自己実現や求められる役割による社会参加の視点から自分のキャリアデザインについて、意欲的に探求する姿が多く見られた。本時では、キャリアアンカーを構成する3つの要素である、①コンピタンス(何が得意か)、②動機(何をしたいか)、③価値観(どんなことに意味や価値を感じるか)と関連付けながら、教科等横断的に対話を進めていく。

### ③ 学びを促進する感情

人と人とのつながりを表現し合える活動により、学びを促進する生徒の前向きな感情を喚起する。タスクをパーソナライズしたり刺激的なものにしたりすることで、自分の思いを相手に伝えたいという思いを高め、活動を充実させていく。また、対話を通して英語で自分の内面や他者の行動について表現できたと実感させ、自己効力感を高めることも大切だと考える。

## 5 指導と評価の計画(4時間扱い)

時間		○…評価規準 【評価方法】	知・技	思 判 表	主 体 的	学習内容・活動	○指導上の留意点 ◎規準を実現するための手立て ★単元の学びの価値を実感させるための手立て
次	時						
1	1	① 自分のキャリアについて既習事項を用いて表現する技能を身に付けている。 【ワークシートの確認・観察】	①			○ 単元の内容について知る。 ○ 自分のキャリアについて表現できることを考える。	◎ 自分の好きなことや興味のあることなどについてメモを多く書き、それらについてどのように表現するかを考える場面を設定する。 ★ 自分自身の興味関心を先に書き出させることにより、様々な表現方法を想起させる。
	2			●		○ Career Meetingに向けた準備をする。	○ Meetingの内容を確認し、充実させるために必要なことを考える時間を設ける。 ★ どのような表現が必要となるかを話し合い、既習事項を活かした表現の汎用性に気付けるようにする。

1	3 本 時	<p>① おたがいの好きなことや得意なこと、向いていると思う仕事を理由等とともに伝え合おうとしている。 【学習活動の観察・ワークシートの確認】</p>	<p style="text-align: center;">①</p> <p>1 Warm-up と本時の課題の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>To be able to use expressions we have learned to exchange our ideas for the future</p> </div> <p>2 Career Meeting をする。  (1) 自分のキャリアアンカーの3つの要素と希望する職業について話す。  • <u>I'm good at talking with people.</u>  • <u>I want to</u> help people in need.  • <u>It is meaningful for me to</u> study social studies.  • I want to be a lawyer.</p> <p>(2) 友達のキャリアについてグループのメンバーと話す。  • <u>I think you can be a good lawyer because</u> you always do right things.  • It <u>will</u> be important to learn about laws.  • <u>You'll</u> have an exam to pass.  • <u>When I</u> have a trouble, you always help me.  (下線部は2学年での既習内容)</p> <p>(3) グループを変えてもう一度 Meeting をする。</p> <p>3 Meeting の内容を踏まえて、気付いたことやわかったことを書く。  • <u>I will</u> learn about laws in a university.  • <u>It is necessary for</u> me to read many books.  • I was happy <u>to</u> hear my friend said that you're kind.</p> <p>4 本時の課題に照らし合わせて、学習について振り返る。  • 自分が使いたかった表現を、友達の発言に合わせて使用することができた。</p>	<p>○ 前時で自分が表現したことについて相手に質問する活動を行うことを伝える。  ○ Useful Expressions を確認する。</p> <p>○ 多くの既習表現を使うことの重要性を伝える。  ○ キャリアアンカーを構成する3つの要素の視点から共有するよう指示する。</p> <p>★ Meeting での自分のありたい姿、使いたい表現を確認することで、その姿の実現へつなげる。</p> <p>◎ 相手に対して言いたいことを表現できるよう前時に確認した既習表現について確認する。  ◎ 言いたくても言えなかった表現についてグループのメンバーと共有したり、調べたりして、次の Meeting に生かせるようにする。</p> <p>★ メンバーを替えてもう1度行うことで、課題の克服や改善をし、自己の成長を実感できるようにする。</p> <p>◎ 次時の Writing 活動に生かせるように、友達の言葉からの気付きなどを書き留めておく。</p> <p>○ 自分が想定した表現を使用することができたかを確認する。</p>
1	4	<p>① 話合いの内容を整理し、自分のキャリアについて書いている。 【ワークシートの確認・観察】</p>	<p style="text-align: center;">①</p> <p>◎ メッセージの中に盛り込みたい内容を提示することにより、既習表現を豊かに使用できるようにする。  ★ 話合いでの友達からの助言を内容に入れられるように支援する。</p>	<p>○ 友達との話合いを踏まえて、10年後の自分にメッセージを書く。</p>